

令和 6 年度 学校関係者評価実施用紙（まとめ用）

学校番号	67	学 校 名	静岡県立磐田農業高等学校	記 載 者	望月 久資
------	----	-------	--------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意 見
ア	心豊かな人間性の涵養と基本的生活習慣の確立	○校訓の示す意味を理解し、実践を心掛ける」生徒 100% ○年間平均貸出冊数 3.0 冊/人以上 ○「主体的なあいさつ習慣が身についている」生徒 90%以上 ○「信頼できる教職員がいる」生徒 90%以上 ○欠席率 2 % 以下(昨年 2.3 9%) ○問題把握から迅速な対応に努め、対応遅延件数 0 件	A	A	・元気なあいさつができる生徒が 8 割を超えていることは素晴らしい伝統である。 ・「3 年間で信頼できる教職員がいる」と回答する生徒が徐々に増加した」ことは、日頃、生徒一人ひとりと真剣に向き合っている教職員の皆さまの努力の賜物であると考えます。 ・長期欠席（不登校）の少なさが他校にないポイントだと感じる。 ・問題把握と迅速な対応は、学校運営において重要であり、適切である。
イ	基礎学力の定着と農業の専門性の向上	○定ツールの学力把握に基づき、学力向上に取り組んだ生徒 80%以上 ○庭学習「ほとんどしない」生徒 25%以下 ○力向上研修会の開催 ○存 G A P 承認の継続と新規県認証取得 1 件 ○クプロジェクトで県大会優秀レベルの発表 3 本(関東 1 本) ○業専門技術研修会の開催 ○習中における重大事故「0」	B	B	・成果目標の家庭学習「ほとんどしない」生徒 25%以下については、目標に達していないが、その分、生徒は実習など通して主体的に学び、実践を通して社会への適応能力を身に付けていると推測する。 ・3 年生の家庭学習が他の学年に比べて低い、これは家庭学習の目的が「進路指導」に重点が置かれていることと分析されている。「家庭学習」の目的は社会勉強を含めたもっとと広義でもいいのではないかと。 ・入学後に自分の目標が明確になるとよいが、なかなか難しい。
ウ	学校行事や部活動により、主体的に取り組む態度と実践力を育成	○「磐農の学校文化・風土を理解し継承できた」生徒の 90%以上 ○「学習や行事・部活動に主体的に取り組めた」生徒 90%以上 ○全国大会出場 3 部活、県大会出場 5 部活以上 ○「地域の未来創造に貢献したと誇れる」生徒 50%以上	A	A	・地域活動等へ参加する生徒の増加が見られ、地域に役立つ人材の育成に貢献している。 ・学習・部活動・プロジェクトなど多岐にわたる活動があり大変だと思うが、それぞれの場面での指導が一定レベルなのかどうか。今後は行政や企業などとの地域共創による取組みに発展することに期待する。

様式第 5 号

エ	将来を見据えたキャリア教育の推進と進路実現	○進路決定率 100% ○「キャリアパスポートを進路実現に活用した」生徒 80%以上 ○学科関連への進路選択者 50%以上 ○国公立大学進学者 10 人以上(各科複数名)	B	B	・学科関連への進路選択者 50%以上は、製造業が盛んな県西部地域では難しさを感じる。また、受け入れ先となる食品系事業は広域で検討し、これらの企業を生徒に知ってもらう取り組みも必要になると考える。 ・進路満足度は素晴らしいが、卒業後 3 年目、5 年目の定着についても数字が出るとよいのではないかな。 ・キャリアパスポートの活用はもう少しやれるのではないかな。 ・国公立大学進学を重点化しているような印象を受けるが、適切な目標なのかどうか。
オ	地域に信頼される基幹施設の地位を確立	○学校HPや Instagram 等による情報更新件数 1.0 件/日以上 ○地域人材や地元大学等の活用と交流 実績 10 回/年以上 ○中・高間共用ルールの作成	A	A	・地域企業等を活用した進路ガイダンスの実施は有効な取り組みと考える。 ・SNS の閲覧者の世代を解析し、アップする内容を検討することで、より有効な広報手段となりうる。
カ	適正かつ実効性ある学校経営管理	○時間外 45 h / 月、360 h / 年以内 ○夏季休暇取得 100% ○定時退勤日の運用 100% 16:50 退勤励行 18:00 完全退勤 ○四半期ごとの執行計画の立案と執行率 90% ○検査・監査での指示・指摘事項 0 件 ○各授業における適切な予算の立案と執行への取組 100% ○計画に基づく完全移管完了 (R7.3.31)	B	B	・働き方改革（業務整理、会議の効率化等）は、ニーズが多様化する現代社会において、簡単にできるものではないと考える。 ・教職員の勤務時間や休暇については単一校だけでは変えられない面もあると思うが、各科内での連携に加え、他科との連携は必要であると感じる。 ・「選択」と「集中」は持続的な教育活動には適さないことは理解しているが、従来の農業高校では実施することが当たり前だったことがらを、費用対効果・教育効果から判断して実施しないという選択肢も必要になってくる。